

第15回王滝Day 2016.5.8(日)

スケジュール	7:00 名古屋市内発	9:30 道の駅「木曽福島」集合	10:00 王滝村着
	10:30 ラブリーアースの森 山菜採りなど		
	12:00 銀河キャンプ場 調理～昼食～交流		
	13:30 王滝村ミニツアー	15:00 王滝村発	18:00 名古屋市内着

五月晴れの王滝Day

水源の森へさかのぼる、木曽路は新緑が美しかった。集合地の道の駅から、静かな御嶽山の雪の峰が望め、ホッとする。王滝の山はカラマツのやわらかな緑、ヤマナシ（山梨）の花、平地より遅い満開のヤマザクラの薄ピンク、トチ（栃）のオレンジ帯びた若葉、ヤナギもシラカバもミズナラも芽吹き始めたばかり、色とりどりで目にも優しい。



ラブリーアースの森で山菜採り。ギャップに育ったタラやコシアブラが頭の上の方になっていた。ゴジュウカラ（五十雀）ヒガラ（日雀）コガラ（小雀）ヤマガラ（山雀）エナガ（柄長）芽吹いたばかりのカラマツの林は野鳥の声もにぎやかだ。私はキビタキ（黄鶯）カケス（掛巣）を目撃。



タラの芽、コシアブラ、ハリギリ、ヤマブドウ、フキ、ワラビ、ヨモギ、クマザサの筍、今回は時期を早めたので山菜の種類も数も多い。



キャンプ場へ移動してお昼。採れたてを、塩ゆで、天ぷらで頂く。森のめぐみを堪能。



王滝村の田中さんがたくさん用意してくださったので、各自の袋に採れた分はそれぞれのお土産に。キャンプ場の利用料金が昨年の倍に値上がりしていた。登山者や観光客が減っている影響だろうか。



午後は田中さんの案内で、清滝まで下りカツラ（桂）の大木を見に行く。落葉すると良い香りを放つ葉が開き始めて少し赤み、これから七色に変化すると説明があった。樹齢 200 年という木は中心の幹と特有の萌芽更新した幹がたくましく、枝に太いヤマブドウ（山葡萄）の蔓が絡みついていた。



古くからの行者道という林床には、フデリンドウ（筆竜胆）、ワチガイソウ（輪違草）、タニギキョウ（谷桔梗）が咲いていて、花好きな仲間を喜ばせてくれた。

「この間、このすぐ近く車で走っていたら、体長 1m くらいのクマが、道端のヤナギの木にもたれて芽を食べていたよ」と携帯の画像を見せる田中さん。いつも生活している場所とは違う世界がここにはあるのだ、と今更ながら感じる。



牧尾ダム湖と御岳を望む村有林の林道へ。長野西部地震復興 10 周年の記念碑の広場で休憩。キツツキ（啄木鳥）のドラミングしきり。暑いぐらいの陽射しの中に、ウワミズザクラ（上溝桜）ヤマザクラ（山桜）が咲いていた。



噴火や地震と隣り合わせではあるけれど、王滝はいつ来ても感動をもらえる。困難さの中で水源を守ってきた人々のくらしと自然がどっしり構えているからだろうか。

参加されたみなさんから、帰宅後つぎつぎとメールやお手紙を頂いた。当日の画像と共に紹介します。

（事務局/R）